

地域に**飛**び出す
公務員アウオード

2 0 1 4

飛び公集



地 域 に 根 を 下 ろ し 、 住 民 と 共 に 生 き よ う

地域に飛び出す公務員を応援する首長連合

平成 26 年 11 月 29 日

目次

アワード概要	1
アワード結果	3
 [No. 7] 横田 文弘 「この指, とまれ！」	4
 [No.11] 関市役所スイーツ部 スイーツで, 地域にパッションを！	5
[No.15] 宮川 誠二 「スティールパンで杵築めぐり」で地域の魅力を世界にアピール	6
[No.16] 中澤 榮二 オール佐久スポーツ少年団 (バドミントン) 指導	7
[No.20] 大西 知芳 環境教育を通じて「人・自然・地域を愛する人づくり」に挑戦！	8
 [No.22] 神山 伸一 ジャーナリスト楽校 in こだいら	9
[No.23] 藤本 雅彦 「ゆるエコ」で「エコにこっ！」	10
[No.30] 長久 洋樹/室川 弘昭 就職活動支援を通じた定住・交流促進による地域貢献活動	11
 [No.31] 倉根 明德 SHIP (信州イノベーションプロジェクト)	12
[No.34] 今野 幸樹 成沢小おやじの会(創立・企画・活動・発展・継続・飛躍へ)	13
[No.36] 晴佐久 浩司 お互いの生き方を尊重しあえる社会に向けて～はれプロの挑戦～	14
[No.38] 大橋 志帆 誰もが活躍できるまちづくり～NPO活動支援・テレワーク推進	15
 [No.39] 円城寺 雄介 全国初！官民協働プラスワンセンター（仮称）プロジェクト	16
 [No.41] 池田 博俊 新潟の町・小路めぐり 自分のまちの楽しみ方	17
[No.42] 上村 祐一郎, 渡辺 紀子 ボカロキャラクター「初音ミク」による合志市音頭の普及活動	18
[No.45] 鈴木 達也 まち遺産ネットひこね	19
 [No.49] 小足 雄高 地元出身の若者とともにガイドブック「銚子人」発行とコミュニティ	20
[No.55] 紙森 智章 子どもを縁に繋がる「楽しみづくりの輪」を広げる地域活動	21
 [No.56] 濱田 裕子 一人ひとりがパワースポット！ 佐賀 facebook 交流会	22
 [No.58] 徳田 匡彦 地備栄牛！高粱紅茶！ポテト！食で攻める進撃の統合作戦本部	23
[No.61] 奈良市役所チーム八重櫻 よさこい踊りを通して「奈良の盛り上げ」及び「奈良のPR」活動	24
 [No.65] 藤田 純子 あたらしいコミュニティをつくる「NPO 法人遠足計画」の活動	25
[No.67] 太田 真美 先生も飛び出そう！発達障がいの若者と先生をつなぐ居場所づくり	26

アワード概要

はじめに

自らの時間を活用して、地域づくり活動、自治会、PTA、消防団、NPO 法人といった組織の中で、住民のみなさんと一緒になって、また、ときには自らがリーダーシップを発揮して活動している公務員がたくさんいます。

今回、地域に飛び出し住民と意思を共有しながら活動している公務員を「飛び公（とびこう）」と命名し、昨年度に引き続き、飛び公を表彰する「地域に飛び出す公務員アワード 2014」を実施します。

職場や家庭における役割に加え、プラスワンとして活動する飛び公の優良な取り組みを発信することで、公務員や地域の住民の飛び公への関心が高まり、地域に飛び出す職員が増えること、また、飛び出す経験が自治体の組織風土改革のきっかけになることを期待しています。

応募資格

社会貢献活動、地域づくり活動、自治会、PTA、消防団、NPO 法人などが取り組んでいる活動に貢献している公務員（他の組織への出向者を含む）または公務員のグループ（自薦及び他薦。但し、他薦の場合は被推薦者の同意を得てください。）

応募要件

- (1) 平成 26 年 11 月 29 日（土曜日）に、兵庫県朝来市で開催される第 4 回地域に飛び出す公務員を応援する首長連合サミットでの発表（20 分程度）が可能であること
- (2) 応募資料（個人情報を除く）を一次審査のために公開すること及び「飛び公集」として取りまとめ Web 等で公開することに同意すること

審査について

(1) 審査プロセス

エントリー期間	一次審査	二次審査	発表・表彰
6月9日（月） ～7月9日（水）	7月19日（土） ～8月22日（金）	9月17日（水） ～10月15日（水）	11月29日（土）
全国から募集	首長投票および Web 投票により 10 名を 選出	審査委員審査により 4 名を選出	第 4 回首長連合 サミット in 兵庫にて 発表・表彰

(2) 審査の方法

【一次審査】（ウェブ投票）

- Web 投票及び首長連合加盟首長の投票により、10 人ほど“飛び公”を選出
- 審査参加首長 49 名、Web 投票数 1,135 票

【二次審査】（審査委員審査）

- 一次審査で選出された 10 名について、下記 4 つの審査基準（各基準 10 点満点）に基づき下記 4 名の審査委員が採点（配点 10 点×基準 4 項目×審査委員 4 名＝160 点満点）し、合計点の上位 4 名を選出

(3) 審査基準

- 成果・効果…地域の課題解決や活性化などにどれだけ貢献しているか、飛び公としての経験がどのように公務に役立っているか
- チャレンジ性…変革や改善に富んだ活動になっているか、オリジナリティの高い活動になっているか
- 協働性…多様な主体が、互いにノウハウなどを出し合った活動となっているか
- 持続性…持続可能な活動となるような工夫がされているか

(4) 審査委員（敬称略）

- 小坂 泰久 千葉県酒々井町長
- 阿部 守一 長野県知事
- 谷畑英吾 滋賀県湖南市長
- 多次 勝昭 兵庫県朝来市長

主催

地域に飛び出す公務員を応援する首長連合

協力

兵庫県朝来市

協賛

株式会社 多夢

アワードと首長連合のウェブサイトの紹介

アワード特設 HP <http://t-k-award.sakura.ne.jp/>

首長連合 HP <http://tobidasu-rengo.blogspot.jp/>

アワード結果（敬称略）



一次審査通過者

- [No.07] 横田 文弘 「この指, とまれ！」
- [No.11] 関市役所スイーツ部 スイーツで, 地域にパッションを！
- [No.22] 神山 伸一 ジャーナリスト楽校 in こだいら
- [No.31] 倉根 明德 S H I P（信州イノベーションプロジェクト）
- [No.39] 円城寺 雄介 全国初！官民協働プラスワンセンター（仮称）プロジェクト
- [No.41] 池田 博俊 新潟の町・小路めぐり 自分のまちの楽しみ方
- [No.49] 小足 雄高 地元出身の若者とともにガイドブック「銚子人」発行とコミュニティ
- [No.56] 濱田 裕子 一人ひとりがパワースポット！ 佐賀 facebook 交流会
- [No.58] 徳田 匡彦 地備栄牛！高粱紅茶！ポテト！食で攻める進撃の統合作戦本部
- [No.67] 太田 真美 先生も飛び出そう！発達障がいの若者と先生をつなぐ居場所づくり



アワード受賞者

- [No.11] 関市役所スイーツ部 スイーツで, 地域にパッションを！
- [No.39] 円城寺 雄介 全国初！官民協働プラスワンセンター（仮称）プロジェクト
- [No.56] 濱田 裕子 一人ひとりがパワースポット！ 佐賀 facebook 交流会
- [No.58] 徳田 匡彦 地備栄牛！高粱紅茶！ポテト！食で攻める進撃の統合作戦本部



[No. 07] 「この指、とまれ！」

横田 文弘 (茨城県 神栖市 中央公民館)

このまちに住む・勤務している人たちを核（ベース）に「勝手にまちコン（レストラン・結婚式場などでコンサート）」を、また、自治体に頼らない「勝手にまちおこし活動（地域に元気を！）」として、地域の団体（農業・漁業等）と連携し「地産・地消活動（収穫祭などのイベントの開催、スーパーなどにコーナーを設置してもらうなど）」を、さらに他の地域、人、団体等と連携（参加・協力）しながら活動を展開しています。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

公務員になる前から活動を始め、もう43年続けています。グループとしての活動は1991年の湾岸戦争での油にまみれた鳥の映像がきっかけで、1992年から環境問題などに関心を持っている人たちと「アースデイ・イベント（～2002）」などを県内各地で企画～展開。また、私たちの住むまちには映画館がなく「それなら、観たい映画を自分たちで上映しよう」と「アースデイ（環境）・イベント」などで作家の椎名誠さんたちの協力を得て、映画の上映会を開催（10年間で15回開催）。「アースデイ・イベント」は2002年で、当初の「出来る事から少しずつ」から「毎日がアースデイ」へとテーマを変え、また、1年に何日かの活動（イベント）でなく、通年での活動へとシフトし、いったん区切りをつけることにしました。そして、それまで「アースデイ・イベント」と併行して行っていた「コンサート」などの活動はそのまま継続し、現在は「アースデイ」から「まちおこし（音楽、地産地消など）」へと活動の軸を変えています。また、現在は、そうした活動の拠点となる場所を創るべく、3年間の空き店舗での実践を経て「2017年夏、開設」を目標に準備を進めています。



一粒の種、命をつなごうコンサート

アピールポイント

(1)成果・効果

私たちの活動は、自治体など（補助金など）に頼らず、私たち自らの頭で考え、体を、そしてお金を使い、それぞれが出来ることを出来る範囲の中で展開しています。そして、20年以上（個人では40年以上、スポーツ少年団ではJリーガー＆日本代表を排出）続けていますが、継続してきたことでまちに活気と元気と、そして笑顔が増えてきた、そんな気がします。

(2)チャレンジ性

自治体が出来ないことを、みんなで力を合わせて行う。例えば、合併で閑散としたまちで、春と秋の年2回、収穫祭などを開催。そこに出すのは、地元で採れたもの（農産物、魚介など）。そして、その延長線上で、地元のスーパーにコーナーを作って販売してもらったり、都内で定期的に移動販売（トラックを仕立てて）を行ったり。また「サード・プレイス」として、いつでも、誰でも使うことの出来る場所を、さらに私たち以外の人たちの活動の拠点となる場所を創るべく、現在準備を進めています。

(3)協働

それぞれが出来ることをする。頭を、体を、そしてお金を使う。また、性別、人種、会社、学校、個人、団体などの枠を越えて連携。これは、言葉でいうのは簡単ですが、実際はなかなか出来るものではありません。それを、ゆるやかな「この指、止まれ！」ということで参加・協力できることをそれぞれがしています。なお、イベントなどの開催場所も、学校やメンバー所有のレストランや結婚式場などで、また、活動は地域内にとどまらず、近隣市町村、全国各地のいろいろな団体等と協力し、行なっています。

(4)持続性

「肩の力を抜いて、楽しく」「出来ることから少しずつ」「この指止まれ！」この3つの言葉をいつも胸の中に入れて活動を展開しています。「活動」、それは継続していつてこそモノ。そして、そこには「ゆるやか」なつながりが大事で、そのために、私たちの活動には細かな規約や決まりは特に作っていません。「この指、とまれ！」これが「継続」のキーワード、そう思っています。



奥尻島・普賢岳災害救済街頭ライブ



かみす市民カレッジ



[No. 11] スイーツで、地域にパッションを！

関市役所スイーツ部（岐阜県 関市 企画部市民協働課）

関市役所スイーツ部は、地域の特産物（パッションフルーツ、ゆず、キウイフルーツなど）を活用したスイーツをつくり、各地域で開催されるコンテストに出品しています。賞に輝いたスイーツのレシピを道の駅や飲食店の方に公開し、商品開発・販売につなげ、交流人口の増加とスモールビジネスによる地域の元気づくりを応援しています。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ



コンテスト参加

平成 17 年 2 月、関市と武儀郡 5 町村が合併しましたが、過疎であった合併地域では、人口減少や少子高齢化が急激に進むとともに、長引く不況により、地域の旅館や飲食店の廃業が続きました。この状況を見た市職員の有志が「私たちの手で何かできることはないか」との思いから、趣味のスイーツづくりを生かして、各地域の農産物や林産物を活用したスイーツによる地域の元気づくりに取り組みました。はじめは、単にコンテストを盛り上げるための参加でしたが、出品したスイーツの評判が良く、道の駅で販売する話しが持ち上がり、地域の方と商品開発に取り組みました。グルメブームの影響で、食による地域づくりは話題となり、道の駅の利用者など地域を訪れる人が増加し、地域の活性化につながりました。

アピールポイント

(1)成果・効果

パッションフルーツを使った「パッション大福」は見事、コンテストでグランプリを獲得。地域の方にレシピを公開し、一緒になって商品開発に取り組みました。道の駅での販売が実現し、「パッション大福」は、地域の人気商品になりました。テレビや新聞などでこの取組みが紹介され、地域の元気づくりに貢献しました。また、翌年には、キウイフルーツを使った「キウイギモーヴ」が、他のコンテストで金賞を獲得しました。趣味を生かし、楽しみながら行う地域貢献活動です。

(2)チャレンジ性

プロの料理人や料理教室の先生が出品されるなどレベルの高いコンテストでしたが、地域の元気づくりの役に立ちたい、協力したいという強い気持ちとアイデアで、地域の特産物の魅力を上手く生かしたスイーツをつくりだしました。

(3)協働

コンテストで賞に輝いたスイーツのレシピを地域の方に公開し、一緒になって商品開発・販売に向けて取り組みました。また、関市役所スイーツ部には、一般の市民の方も入部しており、スイーツづくりを通じた地域との交流の輪が広がっています。



取材のようす



イベント参加のようす

(4)持続性

関市役所スイーツ部が誕生し、3 年が経ちました。今ではコンテストの主催者から参加を期待され、声がかかるほどに成長しました。また、男女共同参画事業として開催される親子料理教室の講師として招かれるなどその活動は広がりつつあります。

[No. 15] 「スティールパンで杵築めぐり」で地域の魅力を世界にアピール

宮川 誠二 (大分県 農林水産企画課)

トリニダード・トバゴ共和国の国民楽器「スティールパン」を使用し、出身地かつ居住地である大分県杵築市内の観光地や景勝地などを背景に、童謡や歌謡曲などを演奏し、それをインターネット動画投稿サイトに投稿する活動「スティールパンで杵築めぐり」を平成 25 年 5 月 13 日に開始し、平成 26 年 10 月 19 日に 100 カ所 100 曲収録を完了、現在は「スティールパンでおんせん県おおいためぐり」と題し、大分県内での収録を続けている。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

平成 20 年夏に自治大学校での在学中、都内で偶然スティールパンの路上独奏を聴き、平成 24 年 4 月に購入。翌 5 月、地元公園で練習の最中、市内の観光地や景勝地を背景に選曲もすべて異なる演奏動画を収録（勤務時間終了後や休日）することをひらめいた。その様子をインターネットの動画投稿サイト「ユーチューブ」に掲載すると同時に、フェイスブックでその情報を拡散した。100 カ所到達日における動画再生回数は 46,334 回、その後も再生回数は伸び、平成 26 年 7 月 4 日現在 64,000 回を越え、その閲覧者も日本国内のみならず、世界各国で再生され、結果、杵築市の魅力を全世界にアピールできた。この間、地方新聞に掲載（4 回）、テレビの情報番組出演（2 回）、地方銀行テレビコマーシャルにおける音源出演（1 回）、プロミュージシャンとの共演収録（2 回）を実現したほか、イベントでの演奏、児童館等施設での出演は 10 回を越えた。現在は、杵築市を飛び出し、大分県に拡大、「スティールパンでおんせん県おおいためぐり」として収録活動が続いている（動画数は 15 本／平成 26 年 6 月 21 日現在）。



スティールパンで杵築めぐり 100 箇所到達イベント

アピールポイント

(1)成果・効果

- ・地元イベントから盛り上げのために出演依頼を多く受けた。
- ・一人でも影響力を与えるコンテンツを作れることの自信がとノウハウが身についた。
- ・100 箇所到達イベントの際、知らない人同士が結びつくようにヒントを得て、市内で「四畳半フォークナイト」という音楽イベントを有志と実施（平成 26 年 3 月 29 日）、同世代や共通の趣味のある方同志を引き合わせることに成功した。

(2)チャレンジ性

Youtube 上に演奏動画を投稿する人は数多いが、地元の風景をメインにその BGM として演奏を添える手法はあまり見かけない。

(3)協働

- ・同窓会の記念映像演奏依頼（第 82 作品目）
- ・店舗の開店記念イベント出演依頼（第 42 作品目）
- ・プロバスケットリーグ試合プレイイベントにおける出演依頼（第 37 作品目）

(4)持続性

現在は、杵築市を飛び出し、大分県に拡大、「スティールパンでおんせん県おおいためぐり」として収録活動が続いている（動画数は 15 本／平成 26 年 7 月 4 日現在）。



杵築城の前で収録

応募者のウェブサイト等

【Web サイト】<http://www.youtube.com/user/grbebiner/videos>

【Facebook】<https://www.facebook.com/sejijimiyakawa>



100 箇所到達イベント告知チラシ

[No. 16] オール佐久スポーツ少年団（バドミントン）指導

中澤 榮二（長野県 小諸市 民生部厚生課）

土、日、祭日午前9時から11時30分の2時間半、小学1年生から中学3年生までの子供たちに、バドミントンの競技をボランティアで指導しています。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

高校時代の後輩が、オール佐久スポーツ少年団を立ち上げ、自分の子供が入部したことがきっかけで、練習に参加するようになりました。既に自分の子供はいませんが、指導歴は足かけ10年になります。

アピールポイント

(1)成果・効果

小中学生がバドミントンを通じ、心・技・体を鍛え、礼節を知り、親の恩を知り、立派な高校生になっていることです。高校生になって、バドミントン部に所属し、市民大会などの試合で、わざわざコーチ陣にあいさつに来てくれることがうれしいです。

(2)チャレンジ性

バドミントンを通じ、自分たちの指導法を絶えず、考えています。

(3)協働

一つの目標に向かって練習することから、子供たち、コーチ陣、保護者会との連携がうまくいっています。

(4)持続性

新入団員が、毎年入ってくるので、将来にわたり、指導の必要性があります。

[No. 20] 環境教育を通じて「人・自然・地域を愛する人づくり」に挑戦！

大西 知芳（林野庁 京都大阪森林管理事務所）

職務を通じて実施してきた森林環境教育活動を自身の地元に広げるとともに、環境教育活動全般へ展開を図るために、京都府南部の環境教育団体や個人が集って京都やましろ環境教育ネットワークを設立し、初代会長に就任。「人・自然・地域を愛する人づくり」を目的として人材育成事業や出張教室等を行うほか、京都環境教育ミーティングや里山フォーラムを実行委員となって成功させるなど、環境教育を通じた人づくりに挑戦している。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

職務を通じて実施してきた森林環境教育活動を自身の地元に広げるため、京都森林インストラクター会に所属して活動を開始。森林だけでなく環境教育一般も含めて活動を展開するため、京都府地球温暖化防止活動推進員への応募や自然体験活動推進協議会公認トレーナー、気象予報士等の資格取得を通じて自身のスキルの向上と情報入手のためのネットワークを広げていたところ、参加した環境教育研修で京都府南部における環境教育活動の問題点を有志と検討し、環境問題を解決するためには人づくりが大切と共有。基本コンセプトを「人・自然・地域を愛する人づくり」として平成24年6月に京都やましろ環境教育ネットワークを6団体で設立し、初代会長に就任。人材育成事業や出張教室、ネットワーク交流事業（やま環カフェ）を開催するとともに、広域連携が多い国家公務員は裏方へ回ることを持続可能性を担保。平成25年度は京都環境教育ミーティングや里山フォーラム等を実行委員として参画し、環境教育活動の普及と深化の支えとなるよう活動を展開。現在は新規開園した運動公園の環境教育に関する企画提案等複数のプロジェクトが進行中であり、地域の環境教育活動を担いつつある。



第10回京都環境教育ミーティング

アピールポイント

(1)成果・効果

京都府南部の環境教育系団体のネットワーク化と情報交換の場やスキルアップのための研修の機会の提供が可能になった。また、環境教育の依頼先として京都やましろ環境教育ネットワークが地域で認識されるようになり、特に城陽市においては教育委員会からの体験活動事業委託のほか、緑化まつり実行委員会への参画、府立木津川運動公園でのイベントや人材育成等を担うようになるなど、地域における環境教育活動の活性化の一助となっている。さらに、これらの手法を自身の職場における森林環境教育プログラム作成や地域協働による国有林の整備活動のファシリテートに活かすことができた。

(2)チャレンジ性

環境教育の普及のため団体独自の子ども向けプログラムを考案し、城陽緑化まつりや京都環境フェスティバルでの披露や生駒市環境授業へ応募するほか、府立木津川運動公園での環境教育活動の企画や木津川市加茂町内の某財団所有山林の整備・活用についての企画を提案、京都環境教育ミーティングや里山フォーラムの実行委員に立候補して環境教育に関する交流を企画・運営するなど、人づくり、地域づくりに挑戦した。

(3)協働

京都やましろ環境教育ネットワークは団体と個人の集まりであるため、団体の運営自体が協働的であることに加え、京都環境教育ミーティングや里山フォーラム、城陽緑化まつりの実行委員となって各種団体と協働によりイベントを成功させたり、青少年野外活動総合センターややましろきづサイエンスとの協働で府立木津川運動公園での活動に道を開いたり、科学実験を通じた環境教育というものにチャレンジすることになった。

(4)持続性

京都やましろ環境教育ネットワークは任意団体であるが、会則を定め、年度毎の経理決算を行うなど、組織として継続的なものとなるように整えるとともに、月に1回運営委員会を開催し、組織の方向性とプロジェクトの進捗等を確認している。また、全てのプロジェクトは事後に評価を行い、質の維持に努めている。



木津川運動公園での環境教育活動



京都環境フェスティバルに出展

応募者のウェブサイト等

【Facebook】 <https://www.facebook.com/yamakan.net>



[No. 22] ジャーナリスト楽校 in こだいら

神山 伸一（東京都 小平市 産業振興課）

「ジャーナリスト楽校 in こだいら」は、ジャーナリズムとメディアリテラシーについて考え、実践していくことにより、地域から情報発信のできる環境作りを目指し、講座などの企画を運営しています。運営委員会は、市民、大学生、市職員などで構成され、楽しみながら活動しています。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

きっかけは、小平市職員の自主研究会でした。知名度の低い小平市をどうするか、小平市の未来はなどと考えている中で、情報発信についての重要性に気付き、主たる勉強のテーマに据えます。最近では、ブログやSNSなどにより、誰もが気軽に情報発信できる時代になりました。一方で、たくさんの情報をどう活用し、見極めていくか、個人の力も問われる時代です。職員だけではなく、小平市を知る人「小平人」みんなでこれらを学ぶ場として、活動を開始しました。



アピールポイント



IMAG1267

(1)成果・効果

◆市職員の勉強会ではなく、市民とともに学ぶ開かれた場としています。講座の企画・運営も市民と市職員がともに考えています。

→市職員、市民、学生からなる運営委員会で企画、運営

◆勉強するだけにとどまらず、実践する場として活動の領域が広がっています。

→地元の情報誌でコラムを連載。

→コミュニティ FM で番組を担当。

もちろん、どちらの活動も市民、学生、市職員が一緒に行っています。

(2)チャレンジ性

各界の専門家による講座はとても魅力的で、講座終了後受講生から何か実践をしたいという言葉がわき出てきたことから、実践編として活動を始め、ラジオ CM づくりやロゴ

マークづくりなどを行いました。（ラジオ CM は、総務省わがまち CM コンテスト 2011 で最優秀賞）

その後、地元のメディアに企画を持ち込み、情報紙へのコラムの連載や FM 局のラジオ番組の運営などに活動の場が広がっています。単なる学ぶ場としてではなく、実践する場、ネットワーク活動として、様々な媒体の活用チャレンジしています。

(3)協働

市民の活動・思いに、公務員が飛び込む「公務員参加型プロジェクト」を目指しています。

市職員だけではなく、市民、学生、NPO、企業人などからなる運営委員会で、講座の企画・運営、実践プログラム（コラム連載、FM 局番組づくり）の企画・運営を行っています。

活動の報告や告知は、ブログ、ツイッター、フェイスブックなどで行っていますが、この更新も手分けして担当しています。

(4)持続性

平成 22 年（2010 年）夏に運営委員会の活動を開始、同年 11 月に初回の講座を行いました。

毎年、専門家を講師にお招きした 4～6 回の連続講座を 4 年連続で開催しています。（第 1 楽期～第 4 楽期）

地元情報誌のコラム連載（月 1 回）は、2 年、FM 局の番組は 1 年を迎えています。

活動開始から 4 年を過ぎようとしているが、まだまだ熱い思いが継続中です。

応募者のウェブサイト等

【Web サイト】 [http:// kodairaj.jimdo.com/](http://kodairaj.jimdo.com/)

【Facebook】 <https://www.facebook.com/kodaira.j>

【Twitter】 <https://twitter.com/jschoolkodaira>



こだいら MIX

[No. 23] 「ゆるエコ」で「エコにこっ！」

藤本 雅彦（兵庫県 加古川市）

エコ推進ゆるキャラ「エコがわさん」と「エコがわさんシリーズ」を活用し、環境を通じて多くの加古川市民に「笑顔（エコにこっ！）」を創り、「ひと」「まち」に元気をもたらす活動を行っている。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

今から8年前、わがまちのために仕事では成し得ない内容で、何か自分にできることはないだろうかと考えていた頃、身近で志高く活動されている同年代の公務員との出会いがあった。ソーシャルアクションスクールや尼崎市の「YAA るぞ運動」の視察、元国家公務員（現知事）との飲み語り合い等により、大きく心が動かされた。2年後、市役所有志の自主研究グループが創設され、これに参加し、メンバー同士で互いに刺激し合い、勉強を重ねながら、各種セミナーへも積極的に参加し、初志は揺るぎないものへと変わった。そして、4年前に、「エコ」で加古川を元気にしたいという想いから、新たに自主研究グループを創設し、「ゆるエコ」「ゆるキャラ」「ウェルネス」「笑い」「低予算」をテーマにメンバーを募り、本格的に活動を始めた。

アピールポイント

(1)成果・効果

「エコがわさん」は幅広い年齢層に親しまれ、少しずつ市民に浸透してきている。小学校でもPTAでも、環境教育等に活用していたり、楽しみながらのエコの啓発が自然と行われつつある。各種の取り組みが評価され、東京商工会議所が主催する「eco 検定アワード」で優秀賞を受賞。加古川市長からも表彰された。

(2)チャレンジ性

加古川の誇る食材を活用した「エコがわ鍋」を開発。「エコがわ農園」で育てた旬野菜（市役所売店でも販売）を用いてイベントに出店し、地産地消と地域活性化をPR。また、ゴーヤーを使用した「エコがわグリーンアート」（グリーンカーテンの進化版）を高校生と実施。市役所では、階段利用を促す「エコシェイプ」ポスターで市民と職員に啓発。さらには、「エコがわ音頭」を作詞・作曲、「エコにこっ！」ステッカーや「エコがわバッジ」を製作。現在は「エコがわ絵本」を製作するとともに、エコがわ寿司を考案中である。

(3)協働

地元レストラン、地元農家、市役所食堂と連携し、地産地消を推進しながら、ともに「HAPPY-HAPPY」の関係を築いている。また、地元の養鶏場を営む方が経営するたまごかけごはん専門店「加古川農家食堂」の立ち上げにも尽力し、島根県で開催されるTKG全国大会では、チームが2年連続日本一を獲得。TVなど各種メディアにも取り上げられている。

(4)持続性

環境、食、ウェルネス、省エネに関するテーマは終わりのないものであり、継続した取り組みが重要である。また、「エコがわさん」以外にもバリエーションに富んだ「ゆるきゃら」を用いており、市民に未永く親しまれる存在となっている。



エコがわさん



エコがわ鍋のブースを出店



加古川農家食堂のスタッフ

応募者のウェブサイト等

【Web サイト】 <http://ecogawa.digi2.jp>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/ecogawasan>

[No. 30] 就職活動支援を通じた定住・交流促進による地域貢献活動

長久 洋樹 (富山県 高岡市 駅周辺・新幹線対策課)

室川 弘昭 (富山県 高岡市 総務課危機管理室)

「高岡で記憶に残る体験を地元の学生に提供する」「地域の次の世代を地域で育てる」とキーワードに、異業種交流グループ「高岡次世代経営塾」で学生向けの就活支援事業「就活サポートプロジェクト」を平成 22 年度から開催。長久は塾の幹事(H21-24)として事業の立ち上げから活動をサポート。室川は担当の副会長(H23-24)として事業運営の中心的役割を担い、現在、支援する側の次の世代のサポート役となっている。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

当初は、「市内企業の魅力を知ってもらい定住促進に繋げよう」「仮に、市内に就職しなくても、高岡を第二の故郷として暮ってもらえるような彼らの一番関心事項を提供し、交流人口の拡大に繋げよう」という発想から、当時、市内異業種交流グループの幹事だった長久が会長(市内中小企業の後継者)と事業フレームを作り、他のメンバーと検討し、塾の地域貢献活動として開催。

実施したことは「社会人のミニ講義」「社会人と学生のグループ討議」「模擬面接」と言葉にするとありきたりの内容ばかりだが、経営者も入った異業種の同世代のメンバーによる対応により参加した学生からは「やりたい仕事、企業に求められる人間像について得た感覚は晴天の霹靂だった」「自分の知らない中小企業への就職も前向きに考えられるようになった」「高岡市内にも興味深い企業があることがわかった」と従来の就活支援講座と比べ充実感を味わえたという学生の評判を得たことから、平成 22 年度に開催以降、毎年開催することとなった。

室川は、平成 23 年度、24 年度、就活サポートを担当する副会長として、学生募集、チラシ作製、事業運営等を進め、活動実績を積み上げてきた。



アピールポイント

(1)成果・効果

この活動は、単に地元就職者を増やすことだけでなく、高岡でいい体験をすることで市内の定住に繋がらなくとも交流人口の拡大に繋がることができるように、学生にとって有益な体験を提供することを目的としている。(具体的には、今の希望企業・職種への就職支援だけでなく、第五希望、第六希望でも就職したい企業を探せる自分探しをさせ、自分が何をしたいのかを本気で考えるきっかけを与えること)

あわせて、このような取り組みが、採用時におけるミスマッチ防止に繋がり、学生個人の人生の損失だけではなく社会生産性に寄与するものと信じ実施している。

学生からは 1000 円の参加料を徴収しているが、「アルバイトを休んできてよかった」と高い評価を頂いている。

(2)チャレンジ性

一般的な会議室での事業実施だけでなく、高岡の魅力を発信するための『観光』と『就活』の融合、講師となる社会人同士の出会いの場となる『婚活』と『就活』の融合といった副次的な目的もあわせて開催。(結果、講師役参加者同士の婚姻実績 1 件あり)

(3)協働

地元の経営者、後継者、企業支援機関(行政、団体、金融)等に属する 20 代から 40 代の異業種メンバーが毎回ボランティアで参加。当日は、塾外からの社会人協力者もいることから、新たな人脈形成にも寄与。

事業の実施(例:大学への募集チラシ配布等)には、公務員の肩書や経験が便利なが多い。同様に、社会人協力者の募集には経営者や大手民間企業の肩書や経験が有用であり、それぞれの業種の特性を生かせる活動となっている。

(4)持続性

平成 22 年度から、毎年 3~4 回程度開催。今年度も従来の活動に先駆け、高岡法科大学と連携し、就職講座の 1 コマに協力。

社会人メンバーにとっても、今どきの若者志向の情報収集といった仕事上生かせるメリットもあり、無理ない地域貢献活動としてこれまで継続。このシステムは、他地域でも応用可能であり、全国の友人・知人へ情報を開示している。



就活サポートの様子 1



就活サポートの様子 2



[No. 31] SHIP (信州イノベーションプロジェクト)

倉根 明德 (長野県 企画振興部地域振興課)

『信州をどこよりも楽しい場所にしたい!』と集まったメンバーと一緒に、様々な方が気軽に交流できる「オープンカフェ」や「朝活」を主催したり、各地の地域づくり活動のサポートをしています! 最近では、世界的なプレゼンテーションイベント「TEDx」や「第2回信州若者1000人会議」の運営をサポートしました。また、今年度から県の職員研修所とコラボして「地域に飛び出す職員支援研修」を企画しています!

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

きっかけとなったのは、信州出身の大学生と社会人が中心となって開催した「第1回信州若者1000人会議」に参加したことでした。「ふるさと信州のために何かしたい!」という熱い思いを持った学生たちのプレゼンに感動し「こんな若者や地域の方々と一緒に信州を盛り上げていきたい!」と思いSHIPを発足させ、共同代表を務めています!

発足当時は行政職員が多かったSHIPですが、これまでに「オープンカフェ」等、5件の活動を主催したり、「TEDxSaku」等、10件の活動をサポートしたりする中で、メンバーの幅も広がり、H26.6月現在、行政22名、民間25名、学生5名のメインメンバーと19名のサポートメンバーの計71名が在籍するまでになりました。

現在は、SHIPの活動に共感していただいた商店のスペースをお借りして「オープンカフェ」と「朝活」を毎月1回ずつ開催しています。また、今年度から県の職員研修所とコラボして「地域に飛び出す職員支援研修」を企画するなど、活動の幅も広がっており、将来的にはSHIPが行政と地域とのHUBとなって、信州をどこよりも楽しい場所にしていけたらと思っています。

アピールポイント

(1)成果・効果

今、信州では「信州若者1000人会議」「小布施若者会議」等、信州を盛り上げるための活動が各地で次々に生まれています! SHIPはそれらの活動をサポートするとともに、各活動の参加者を結びつけることで、『信州をどこよりも楽しい場所にしたい!』という目標に向かって突き進んでいます! また、多種多様な活動や交流が公務にも役立っていることはもちろんのこと、今年はその人脈や経験を活かし、職員研修の企画もしています!

(2)チャレンジ性

企業経営者と学生との意見交換会や地域づくりに関するパネルディスカッションのファシリテーター、着物コンテストの審査員、ラジオ出演、雑誌の取材等、依頼があればどんなことにも挑戦しています! また、今年度から、職員が地域活動に参加するきっかけづくりを目的にした研修の企画にもチャレンジさせてもらっています! その他にも様々なお話をいただいているので今後もどんどんチャレンジしていきたいです!

(3)協働

SHIPは「協働」と「多様性」を大切にしており、官民でバランスよく構成された社会人に、学生を加えたメインメンバーと経験豊かなサポートメンバーで活動しています。それぞれの持つネットワークを活かすことで、活動に共感してくださる地域の方も増えており、活動の場所を提供して下さる商店があったり、「浴衣の着付けを学ぼう!」と企画した朝活では、プロの着付け師がボランティアで協力してくださったりしています。

(4)持続性

活動の継続には組織内での理解も必要であることから、職員向けの掲示板で活動報告をしたり、「TABLE FOR TWO」という食を通じた国際貢献プログラムを県庁の食堂に導入し、食育や健康、農産物活用といった部局連携の企画も検討しています。また、職員研修の企画や新採職員研修での講師を任される等、組織との連携も徐々に進んでおり、今後もメンバーと一緒に楽しく続けていきたいと思っています。

応募者のウェブサイト等

[Facebook] <https://www.facebook.com/ship.shinshu>



[No. 34] 成沢小おやじの会(創立・企画・活動・発展・継続・飛躍へ)

今野 幸樹 (茨城県 日立市 教育委員会郷土博物館)

「すべては子ども達のために」を基本に、

- ・ 子ども達にもっと楽しい体験と思い出を！
- ・ 子ども達にもっと安心と安全を！
- ・ 子ども達に夢と希望を！
- ・ おやじ達が交流を図りおやじパワーで学校と地域に活力を！

を掲げ、活動を推進するために、PTA の組織にも加入し、教員・保護者・地域の方々からの多くの支援・協力・声援を受け活動。年 10 以上の自主事業の他、学校行事・子ども会行事・地域行事もサポート

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

子ども達・保護者・学校・地域にとって、プラスになるであろうとの想いから「おやじの会を創ろう」と考え、平成 18 年、小学校児童全世帯に「お父さん出番ですよ！」と呼びかけをし活動を開始。初年度から下記事業を企画し活動。

- ・ 地域パトロール
- ・ サイクリング (往復約 40km サイクリング)
- ・ 昼のプール (着衣水泳体験や、溺れた時の対処方法等)
- ・ 夜のプール (夜の学校プールで非日常を楽しむ)
- ・ 宿泊体験 (校庭に子ども達がダンボールハウスを創り宿泊。校舎内きもだめし・夜のプール等を実施)
- ・ 昼のピクニック (山でのピクニック。※池越スターザン等設置)
- ・ 夜のピクニック (満月の日月明かりの下を歩く) ※高 3 と歩く 6 年後の夜ピクも開催
- ・ 体育教室 (体育が苦手な児童の苦手克服)
- ・ 自転車教室 (自転車に乗れない児童を乗れるように)
- ・ ボウリング大会 (児童 100 人超でのボウリング大会)
- ・ We Love ♥ 成沢 (地域内の清掃)
- ・ 卒業生へのメッセージ (ビデオで卒業生へエール)
- ・ 現在 45 名(6.5 世帯に 1 人)で積極的な活動を展開中。



宿泊体験集合写真



サイクリング集合写真

アピールポイント

(1)成果・効果

設立時から「地域の子供も自分の子供と同じように、見守り・励まし・育てる！」

(他人の子も怒る・褒める)を活動スタイルとしてきたことにより、「地域親」として地域にしっかり根付いてきている。以前は「母親」主体の PTA・子供会・地域活動や行事等へ参加が、おやじ達の積極的参画により、盛り上がりが見られ、地域の一体感も強化されている。(子供会加入率は 98%以上で市内で突出)

また、こども達の環境・性格・人間関係等も解っているのでトラブル・いじめ防止、非行防止等にも役立っている。(児童が卒業しても「地域親」は継続で、高校生になっても交流はつづき、本人や保護者から悩みの相談等もある)

昨年度は事例発表依頼多数、12 会場:2500 人以上に活動を伝える。

(2)チャレンジ性

やったほうが良いことはすぐにやる！(先伸ばし禁止)

好ましくない事は改善する！(見て見ぬふり禁止)

できない理由があれば解決できるようにする！(言い訳禁止)

事後反省をしっかり行い次に活かす！(やりっ放し禁止)

でチーム活動を推進。初年度から事業を展開し、毎年バージョンアップ魅力アップを図っている。

(3)協働

各自の個性・長所・得意・不得意を理解、活躍の場・能力を発揮できるよう配慮し、誰もが主役になれる環境・チャンスを創っている。

(4)持続性

メンバーに「目標と目的」「楽しさと存在価値」を持ってもらうことで、継続可能な活動となっている。



夜のピクニック集合写真

[No.36] お互いの生き方を尊重しあえる社会に向けて～はれプロの挑戦～

晴佐久 浩司（農林水産省 近畿農政局農地整備課）

格差社会に備え農を基軸とした暮らし方を探求することを目的に、食を通じたコミュニティづくりを実行。

(1)Oh!!ばんざい おばんざいの価値を再認識し家庭料理の大切さを伝えるため、毎月おばんざいパーティを開催。

(2)桃山プロジェクト 桃香あふれていた地域を復活させるため、桃の植樹や桃スイーツを開発。

(3)家庭菜園講座 ベランダで簡単な野菜の育て方を学び、暮らしの中で食べ物に触れる機会を提案。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

2010 年にやねだんの豊重氏の講演を聴き、自分でできることを考え行動しようと決意。人脈づくりや具体的な計画を検討していた折、東日本大震災が発生。これまでのネットワークを活かし、市民活動団体“日本創生有志の会”を結成し、東北の子供たちの笑顔を絶やさぬことを目的に活動を開始。そして、個人が安心して心豊かに暮らすためにはコミュニティは必須で、人と人とのつながりがあれば自分の想いは実現できると確信した。

その後、南山城村の米農家の販売促進、和束町の民家改修を通じた茶農家との交流、京町屋で田舎の魅力を伝えるイベントを開催するなど、都市と農村を結びつける活動を展開。社会に向けて活動を開始するとネットワークは際限なく広がり、2012 年に京都市未来まちづくり 100 人委員会の委員に推薦され、京の食文化＝おばんざいの啓蒙を実施。

居住地の伏見で桃の植樹活動の市民団体に参加。今年から、家庭で毎日野菜を育て生き物の成長を感じるという本当の食育を実践するための講座を開始。

いずれの活動においても自分自身が楽しむことと、子供が地域に誇りをもてる社会を大人の責任としてつくることを大事にしている。



Oh!!ばんざい活動



伏見桃山古地図

アピールポイント

(1)成果・効果

(1) Oh!!ばんざいでは、京都新聞への掲載 3 回、コミュニティ・ラジオへの出演、雑誌 Reaf への掲載など広報を展開。おばんざいパーティへの参加者は計 9 回で延べ 250 人を超えており、facebook ページのいいね数は 468 件。知名度と実行力を認められ、食関連イベントへのブース出店依頼が多数ある。

(2) 桃山プロジェクトでは、京都新聞への掲載 1 回や、地域コミュニティ誌への掲載、新聞折込によるチラシの配布を通じて、活動が認知されている。公園・神社・学校等での植樹活動には市民も参加し、これまで約 200 本植樹している。今年 3 月に実施した桃の郷フェスティバルには 300 名以上が来場し、地域の飲食店が制作した桃スイーツが完売するなど好評であった。

(3) 家庭菜園講座では、少人数を対象にセミナーを 5 回開催し、参加者と密なコミュニティを作り、家庭でプランターでハーブや野菜を育てる実践者の育成につなげてきた。今年 9 月のセミナーは 300 人規模で開催し、さらに実践者を増やす予定。

(2)チャレンジ性

いずれの活動も団体の発展が目的ではなく、地域社会をより良い方向に変えていくために市民にも参加して頂いて活動を展開している。今後、様々な団体と連携して、農を基軸とした暮らし方の社会的なムーブメントを巻き起こしたいと考えている。

(3)協働

Oh!!ばんざいと桃山プロジェクトは、京都市主催のまちづくり委員会で集まった市民有志が始めたもので、行政はもとより地域住民とも協働してプロジェクトを展開している。また、家庭菜園講座も市民への啓蒙を目的としている。

(4)持続性

活動を開始して 5 年目になるが、ますます人的ネットワークが広がり、実践できることが拡大している。いずれの活動も複数メンバーで実施しており、活動資金も参加費にて自己資金を得ており、継続的に活動を続ける体制は整っている。今後、本来の目的である農を基軸とした暮らし方の提唱につなげていきたい。



家庭菜園

応募者のウェブサイト等

【Web サイト】 [http:// haresaku.jimdo.com/](http://haresaku.jimdo.com/)

【Facebook】 <https://www.facebook.com/haresaku>

【Twitter】 <https://twitter.com/harepro>

[No. 38] 誰もが活躍できるまちづくり～NPO活動支援・テレワーク推進

大橋 志帆 (群馬県 太田市 健康医療部介護サービス課)

NPO 法人スタッフとの情報交換を通して、対等な立場で NPO 活動を支援する。NPO 法人の「通訳」として、関係機関や他のセクターとの橋渡しを行う。多様で柔軟な働き方としてテレワークの必要性が高まっている状況を踏まえ、当事者意識でテレワークの推進に取り組む。様々な機会を捉えて情報発信を行うとともに、課題解決に向けたネットワークづくりを行う。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ



【テレワーク・カフェ】メルマガ配信中(∩o∩)／

平成 22 年度太田市において、NPO と行政の協働として、ひとり親家庭等在宅就業支援事業を活用した業務委託がスタート。事業は順調に進んでいたが、平成 24 年度に事業内容の変更があった。「大きな壁にぶつかり、絶望しかけた NPO 法人を何とか元気づけたい」これが NPO 活動支援を始めたきっかけである。活動を進めるなかで、在宅就業の評価向上が必要であると実感し、テレワーク推進を活動テーマに追加した。平成 25 年 3 月、NPO 法人の活動 PR のため、市長との懇談会を企画・開催した。平成 25 年度は、ハローワーク太田所長との会談、テレワーク第一人者・田澤由利氏の書籍出版プロジェクト応援、長野県塩尻市振興公社との交流を行った。平成 26 年 3 月には、NPO 法人に対して、総務省の地域情報化アドバイザー派遣を実現させた。自己研鑽のため、NPO 活動やテレワーク関連のセミナーに参加（平成 24 年度

～26 年 6 月までに計 15 回参加）。メーリングリストへの投稿を月 1 回ペースで継続中。活動 3 年目である平成 26 年度は、学んだことを実践に移す年と位置付けている。4 月からは、週 1 回ペースでテレワークのメルマガ配信を開始、現在読者拡大中である。

アピールポイント

(1)成果・効果

NPO 法人には機会あるごとに励ましの言葉をかけ、対等な立場で協議を重ねてきた。NPO 法人は復活を遂げ、県の補助事業採択による活動資金確保や業務開拓に成功し、ひとり親等の自立支援に貢献できた。今後のさらなる発展が期待できる。メーリングリストやメルマガでの情報発信を継続的に行うなかで、テレワークに関心を持つ人は確実に増えている。テレワークは、ひとり親や障がい者の自立支援だけでなく、出産・育児・病気・介護等による離職を防ぐほか、男女共同参画、雇用促進、災害時の業務継続等、幅広い分野に活用できる仕組みである。このテーマに取り組むことは、公務員としての成長につながっている。

(2)チャレンジ性

NPO 活動支援を出発点とし、その活動を通してテレワーク推進という大きなテーマに出会った。何事も、やってみなければ始まらない。テレワークの推進は「働き方の変革」という難しい側面を持っているが、公務での経験や他者との調整力により、ネットワークづくりを進めている。

(3)協働

どのような活動をしたら良いか悩んでいた時、NPO 法人パブリックリソースセンター代表理事・久住剛氏からアドバイスをいただいた。「NPO 法人を応援したいという熱意を失わずに、とにかく粘り強く、諦めずにやり続けていけば、必ず道は拓けます。」この言葉が大きな後押しとなり、今も活動の原動力となっている。ハローワーク太田所長からは、雇用・労働面での専門的な意見をいただき、NPO 法人の活動改善につながった。塩尻市振興公社は太田市との共通点もあり、活動にあたって良いヒントが得られた。テレワーク第一人者・田澤由利氏の協力を得たことで、活動が大きく発展した。

(4)持続性

NPO 活動もテレワークも社会に必要な仕組みである。飛び出す公務員の活動は、人事異動に左右されず、ライフワークとして取り組むことができるので、今後も持続・発展させていく楽しみがある。共感者を増やしながら、次世代に繋げていきたい。



地域情報化アドバイザー派遣



活動の参考書



[No. 39] 全国初！官民協働プラスワンセンター(仮称)プロジェクト

円城寺 雄介（佐賀県 情報業務改革課）

各分野の世界的なスペシャリストを招いた講演会をはじめ、地域へ飛び出そうとする公務員だけでなく住民にも参加を呼びかけ、講演会で得た気づきや一歩踏み出す勇気を実践するための場（機会）を公益財団法人佐賀未来創造基金（以下、当財団）が提供し、繋げ、実践することができる全国初の官民協働プロジェクトで「地域へ飛び出す公務員」+「地域へ飛び出す住民」を応援する様々なプロジェクトを行っている。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

主催者は救急車でのiPad活用の政策を企画導入を行ったことで、不可能と言われていた救急搬送時間の短縮に成功し、2012年にMCPCアワードでグランプリを、全国知事会先進政策創造会議では大賞を受賞。TedxFukuoka2013スピーカー。

「現場」を徹底的に回ったことが成功の大きな理由であったことから、公務員が現場へ飛び出せばどれだけの素晴らしい政策が生まれるかを身をもって体験し、仕事ではないアフターファイブの時間を使って現場へ、地域へ飛び出す仲間を増やそうと思い立ち、『佐賀県庁アフターファイブ講演会』を設立実施。

前回のアワードでネクスト賞を受賞した『佐賀県庁アフターファイブ講演会』を連携開催したことがきっかけで講演会や地域参加に関する事業を当財団と協働することにより更にパワーアップさせ、「地域に飛び出そうとする公務員」はもちろん、「地域に飛び出そうとする住民」の皆様の背中も押すようなプロジェクトを今年度新たに官民協働で取り組んでいます。



写真1（県庁×CSOのコラボレーション！）

アピールポイント

(1)成果・効果

講演会を通じて参加者同士の繋がりがうまれることはもちろん、講演会で得た刺激、地域のために一歩踏み出したい、アクションを起こしたいというマインドに応えるべく、会場で当財団が寄付やプロボノなど参加者ができる範囲で、かつ好きなスタイルで「一歩」が踏み出せる多様なプログラムを用意。「こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した」（NPOテラルネッサンス丸丸昌也氏）講演会では、寄付や書籍等の販売により、その場で10万円以上の活動資金を集めることができた。このお金は「ウガンダの少年兵社会復帰」や「カンボジアの地雷撤去」に使われている。

(2)チャレンジ性

県庁職員とCSOの若手がタッグを組み、お互いの特性を活かす活動を展開。世界的に活躍している人をゲストに、高まった気持ちをすぐにカタチにできる様々な協働メニューの提供をするという官民のコラボレーション。また、講師も世界レベルで活躍する方で、11月にはなんと世界銀行元副総裁もゲストで講演してくれるなど、なかなか話を聴く機会のないゲストを呼び続けてきている。

(3)協働

文字通りの「官民協働」での社会参加促進プロジェクト。

行政とCSO(Civil Society organizations)の協働を中心に実践中。今後はさらに企業の代表者に声をかけ、産官民協働で佐賀県を変えて行くプロジェクトを展開予定。佐賀県の事例をモデルケースに日本全国に官と民のコラボレーションを広げていく。

(4)持続性

講演会をはじめ、全プロジェクトを協働で行うことにより、それぞれが役割分担をすることで効率・効果的な運営が可能となり、継続してプロジェクトを続けることができる。講演会の周知や名簿の整理、会場の設営など、公務員が日中に仕事をしながらの開催はかなりの負担であるので、CSOと協働することで日中はCSOが対応し、人脈を活かしたゲストとの交渉は職員側で行うなど、お互いの強みや経験を活かした取り組みを行っている。

応募者のウェブサイト等

【Facebook】 <https://www.facebook.com/yusuke.engeorge?fref=ts>



写真2 講演会チラシ
（丸丸昌也氏）



写真3（参加者は誰でもOK。
その場で寄付やプロボノも可能に！）



[No. 41] 新潟の町・小路めぐり 自分のまちの楽しみ方

池田 博俊 (新潟県 新潟市 都市政策部)

ないものねだりからあるもの探しへ「何気ない町の魅力を通して自分の町への関心と自信を高めたい」そんな市民の活動に行政も協力参加。市民と行政、お互いやる事を出しあえる「路地連新潟」というグループを結成し「路地でめぐる楽しさ」に注目。新潟の町をナビゲートする取り組みをしています。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

新潟市の中心市街地で江戸時代から付む「小路」その歴史に触れる切っ掛けになればと2002年、その風景の魅力を1人の市民、野内氏がイラストに描き、自前の案内板や地図で紹介。名所旧跡でもない小路に市民の目が向く切っ掛けとなる。2007年、その活動を目にした池田氏により新潟市も協力参加し本格的な小路めぐりの案内板、地図、まちあるきのコース、ガイドが誕生。地元小中学校の総合学習や、商店街イベントでの活用、町を楽しむグッズ開発へと、楽しさが繋がっています。



G1

アピールポイント

(1)成果・効果

地図と案内板を手掛かりに、地元の人間が「自分のまちを歩いてみる機会」を提供した。歩く事で普段の生活で見過ごしがちな「地元」の価値に気が付く切っ掛けとなりました。またこれらの活動は、公益財団法人日本デザイン振興会の「グッドデザイン賞2013」(街づくり、都市づくり部門)を受賞し、新潟市民にさらなる町への関心を向けさせています。



G2

(2)チャレンジ性

まちあるきを楽しむ視点として、名所旧跡が無くても、だれでも各々の目で自分の町を楽しむテーマや意識を持ちさえすれば、まちは楽しめ、発見できるという事を実証した。見慣れた物の価値に気が付くと、その価値がまちの財産である事に気が付く。まちに根ざした財産の活用は、そこで商いをする人、生活をする人々の、さらなる愛着と自信を醸成させている。

(3)協働

新潟では地元のイベントで活用されたり、教育現場にて地元の歴史に触れる総合学習等で活用され続けています。

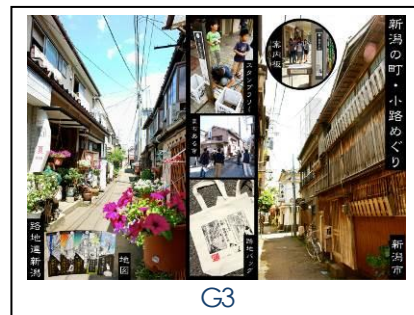
(4)持続性

「新潟の町・小路めぐり」の取り組みは、当たり前前の事、価値が無いと思い込んでいる事であっても、ちょっと視点を変えるだけで、その意味と価値を楽しめますよ！という意識の改革「ないものねだりから、あるもの探しへ」を促す事がテーマでありました。小路を様々な興味や視点で、歩いたり案内される人々が、新潟の町では増えてきました。

応募者のウェブサイト等

【Web サイト】 <http://www.machigenki.jp/115/k-1367>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/rojirenniigata>



G3

[No. 42] ボカロキャラクター「初音ミク」による合志市音頭の普及活動

上村 祐一郎（熊本県 合志市 学校教育課）

渡辺 紀子（熊本県 合志市 税務課）

「初音ミク」に合志市音頭を踊らせてみた。

若者にはちょっとなじみの薄い音頭を、バーチャル世界で表現しました。市 HP は開設以来最多のアクセス数を記録し、動画の再生回数は 6 万回を超えました。その結果、市音頭は若い人たちにも浸透し、音頭の普及そして全国に合志市をアピールすることができました。「アニメを生かしたまちづくり」を掲げる合志市において、皆が楽しめることのきっかけ作りを企画し活動しています。

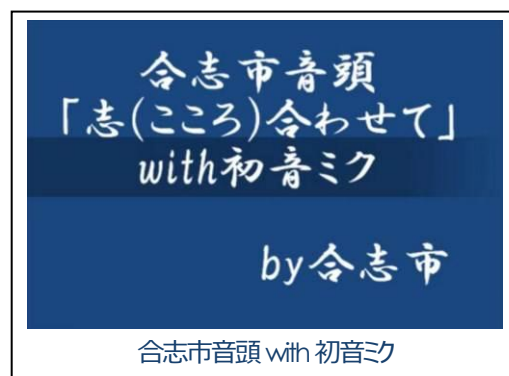
活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

2010 年に合志市音頭楽曲完成。2011 年に振付完成。

その頃 TV で放送された『初音ミクソロコンサート』を観て感動し、初音ミクが合志市音頭を唄い踊ったら楽しいよね、と何気なく職員で話したのがきっかけ。

その後いろいろ調べたところ、MMD (MikuMikuDance) というフリーソフトの存在を知り、これとボーカロイドソフトを使用して合志市音頭を作るという企画を、当時生涯学習課に所属していた職員 2 名で市長に申し出事業に着手した。それから音楽素人の職員が音楽を担当、ゲームが趣味の職員が踊りを担当し、業務時間外や土日に作業した。二人とも初めてソフトを使用するという体当たりで無謀な試みだったが、踊りの講師が踊る合志市音頭の動画を何度も何度も詳細に見ながら、2 ヶ月程度かけて何とか完成。

2011 年 8 月 2 日、動画を合志市 HP の youtube にアップし無事お披露目となった。



アピールポイント

(1)成果・効果

2011 年 8 月 8 日、ニコニコ動画に記事が掲載、動画がアップされ、デイリー VOCALOID 総合ランキング 6 位となる。

合志市 HP の youtube 動画再生回数：64,000 回以上

ニコニコ動画上の動画再生回数：51,000 回以上 (H26.6.30 現在)

特に、自治体 HP のアクセス数が 6 万台になることは異例のことである。

PR の甲斐あり、その年の市夏祭りにおいて合志市音頭を初めて披露した際は、たくさんの参加者が輪になって音頭を楽しんでいただくことができた。



合志市音頭総踊りの様子

(2)チャレンジ性

ボーカロイドソフトを自治体で使用し公開することは初めてだったとのこと。

（『初音ミク』著作権所有者であるクリプトン・フューチャー・メディア株式会社の担当者より）

(3)協働

パソコン関係に詳しい職員や一般の方々に相談し、時にはご協力いただいた。

(4)持続性

著作権使用許可申請が 2011 年～2013 年となっており、その後継続は行なっていないので、現在合志市音頭の普及活動としての動画公開は行なっていない。継続は無いが、市長のマニフェストの一つ「アニメを生かした

まちづくり」に繋がるよう、今回の経験を生かしていきたいと思っている。

応募者のウェブサイト等

【Web サイト】<http://www.youtube.com/user/Koshicity>

鈴木 達也（滋賀県 彦根市 税務課）

2009年に結成した市民団体で、現在6名で活動。彦根城下町のまち歩きマップ制作とまち歩きイベント開催を通して、知られざる彦根の歴史的遺産（まち遺産）を掘り起こし、紹介している。これまでに「鍾馗さんマップ」「彦根城外堀マップ」「花しょうぶ通りマップ」「七曲がりマップ」の4種類を制作。今年度は3種類のマップを新規に制作し、7回のイベントを計画している。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ



七曲がりマップを使ったまち歩きイベント

子どものころから歴史が好きで、彦根の歴史を生かしたまちづくりに関わりたかった。大学卒業後、市民が企画する歴史講座のプロジェクトチームに参加するなど、地元で歴史好きの人々との親交が深まった。そこで現在いっしょに活動しているメンバーと知り合った。

彦根は彦根城を中心とする城下町だが、江戸時代の貴重な町家が年々少なくなっている。観光に関しては、彦根城の集客は大きいですが、城だけを見る日帰りの観光客が多く、まち全体に効果が波及しているとは言い難い。商店街は衰退し、中心市街地の空洞化が進んでいる。

そのような彦根の課題を考えると、町並みを保存するような大がかりな活動は難しいが、まずはまち歩きを通じて彦根の面白さを知ってもらうことが重要だと考えた。歴史的建造物だけでなく、江戸時代の古地図のまま残っている路地や、そこに住む人々の営みも含めて広く紹介している。それにより、まち歩きを楽しむ人の輪を広げ、まちを元気にしたい。

アピールポイント

(1)成果・効果

新聞に取り上げられるなどしたため、活動が認知され、まち歩きイベントに毎回30名程度の参加者が集まるようになった。マップは観光案内所や商店街に置かれ、まち歩きの輪が確実に広がっている。ここ2年間は小学校の総合学習に招かれ、子どもたちに地域の歴史やまち歩きの面白さを伝えている。市役所での所属が税務課であるため、公務との直接のつながりはないが、地域を知ることがよりよい公務につながっている。

(2)チャレンジ性

江戸時代の彦根城下町を描いた精巧な古地図があり、現在の彦根の城下町はほぼ古地図どおりに残っている。これまで史料としては知られていたが、まちづくりに活用されることはなかったため、古地図を使ったマップを作成した。観光ガイドはあるが、観光地でないところまで案内するマップはなかったため、作成した。

(3)協働

市職員であるとともに歴史の専門知識があるので、市教育委員会文化財課の学芸員と一般市民をつなぐ役割を果たすことができ、マップ制作にあたって協力を得ている。特定の地域を取り上げた花しょうぶ通りと七曲がりでは、地域の皆さんの協力を得て、地元のイベントの企画に参加するなどした。現在も協力関係が続いている。

(4)持続性

ここ3年間、市の観光振興課から市民団体への補助金を得て、マップを制作している。活動を継続する上で資金面が課題になるが、一度作ったマップに関しては、増刷する小額の資金があれば継続が可能である。



小学校の総合学習で地域の歴史を伝える

応募者のウェブサイト等

【Webサイト】http://www.geocities.jp/machiisan_hikone/



鍾馗さんマップと外堀マップ



[No. 49] 地元出身の若者とともガイドブック「銚子人」発行とコ

ミュニテ

小足 雄高 (千葉県 銚子市 観光商工課)

徐々に活力を失う地元を何とかしたいという想いから、首都圏の銚子出身の若者 3 名と銚子の魅力的な人を紹介するガイドブック出版を企画し、平成 27 年春に発行予定。費用は、市民による寄付や、活動に共感いただける方向へのクラウドファンディングを活用した。市民参加のワークショップで、銚子人の候補選出を行った。共感の輪は広がりつつあり、地元信用金庫の職員などとともに、「チーム銚子人」として、出版後の活動を検討中。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

地域に挑戦の生態系を作り出すことを目標に、東京の NPO 法人 E T I C. と連携し、地域のチャレンジプロデューサーとして、首都圏の社会人が地域の課題解決に取り組むアカデミーを平成 23 年度に、新たなチャレンジをしようとする地域の経営者を支援するため、実践型インターンシップを平成 24 年度に開始した。

そんなとき、銚子の出身者向け SNS に代表の力武から、銚子人出版を行いたい旨の投稿が昨年 3 月にあった。銚子人制作のきっかけとなったコミュニティラベルガイドシリーズの「福井人」の完成報告会に銚子出身者 3 名と参加し、その場で制作委員会を組織し、制作を決定する。

銚子出身の若者が自分の時間とお金を使って行う銚子のためのプロジェクトを知ったとき、挑戦を応援しているものとして、地元の公務員として、この活動を支援し成功させることが出来なければ、私自身の存在する価値すらなくなるといった思いがわき、活動を開始する。

その後、月に 2 回ほどのペースで土日に東京や銚子での打ち合わせを行い、それ以外はスカイプ等でミーティングを重ねていき、寄付集めを開始するとともに企画会社へ想いを伝え、出版が実現する運びとなった。



銚子人制作委員会



チーム銚子人

アピールポイント

(1)成果・効果

いかに風光明媚な風景やおいしい食材があっても、それを伝える人との出会いが無ければきっとその地域への観光は継続しません。その人との出会いをコーディネートできる銚子人はまさに地域に求められるものであり、それを全国販売できることにおける地域へのインパクトは大きいと思います。しかし、それよりも首都圏と地域がつながり、地元の地域活性化へ向けたコミュニティ、銚子で活動するコミュニティができたことが何よりも大きな成果であると思います。

(2)チャレンジ性

地域外の人と地域の人、さらにお金も集めるという公務員としてはかなりやりにくい面がありました。その点では、かなりの部分を他のメンバーに助けられております。

(3)協働

今回の活動そのものが私個人の活動の延長ではなく、首都圏の若者と一緒の開始した活動であり、チーム銚子人としての活動はまさに住民との協働で行っている。

(4)持続性

当初から、出版して終了ではなく、作る過程に価値があり、そして作った後にこそ私たちの活動の本番が始まると考えています。そのため、銚子人でできたコミュニティとともに新たな活動を開始する予定。現在、旅行商品としての活用の引き合いもあり、現実の地域活性化のため、観光のために活用したいと考えている。

応募者のウェブサイト等

【Web サイト】 [http:// www.choshijin.com/](http://www.choshijin.com/)

【Facebook】 <https://www.facebook.com/choshijin>



ワークショップ風景

[No. 55] 子どもを縁に繋がる「楽しみづくりの輪」を広げる地域活動

紙森 智章（奈良県 吉野町 総務課）

PTA 活動を通じて、子どもの健全育成と子育て世代の繋がりやの輪を広め、「楽しみづくりでない、楽しみづくり」をおこなう PTA 活動の輪を広めている。また地域活力が衰退する中で、若い世代と高齢世代と交流する新たなイベント開催（こども夢灯り）。子どもの純真無垢な夢あふれるエネルギーを地域の元気さへに繋げる活動をしている。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

PTA 活動は、我が子が学校に通っている間の貴重な機会と思い、長男の小学校入学を機に学級委員に立候補、以降、子どもの進級にあわせて小学校、中学校で会長等本部役員を務めて今年度で途切れなく 12 年目を迎えた。この間、市 PTA 連合会会長も経験。現在、中学校単 P 会長、市 P 連合会役員、県 P 協議会副会長、市青少年指導員協議会会長等を兼務。PTA 会員資格の最終年度を迎えるも、更に先頭に立って積極的に人と人の繋がりやのなかで活動領域を広げている。

アピールポイント

(1)成果・効果

PTA 活動から広がった活動領域は、仕事では関わることのない多くの人々との出会いを私にもたらしけている。自らの子どももいじめにあって、高校生の今も不登校。同様に思い悩む保護者と悩みを分かちあい、すこしでもよい方向にと活動を通じて提言しつつ、子どもを信じて元気を出して前を向いて人と人を繋げる活動に張り切る私の姿に励まされるとの労いの声が私自身の励み。保護者、教職員、地域の人々、子どもを縁に楽しみづくりの輪が広がった。

(2)チャレンジ性

前例にとらわれることなく、できないからできるへ、そして苦しみから楽しみへ、不易流行の言葉のとおり、時代と共に変えていくべきことは、お互いが納得したうえで、変えてきた。元気な PTA 活動は、現場の先生の気持ちを動かした。小規模校であるが故に人間関係も辛い時もあるが、おたがいの顔が見えて、笑顔が溢れる地域の中の学校づくりは、地域の元気再生に繋がっている。

(3)協働

「地域の学校」づくりを目指し、地域住民との関わりが欠かさず取り組んできた。街の活力も衰退しつつあるなか、昨年度から、PTA が、地域の元気を再生するイベント「こども夢灯り」を開催。子どもたちの夢あふれるメッセージを行灯にしてお祭りを開催。校区内の全ての幼小中約 570 名がメッセージを添えてくれた。今年度は地域商店街の七夕祭りと連動して開催。

(4)持続性

12 年間の継続活動で見えてきたことは、次世代へ受け繋ぐこと。がむしゃらに今頑張っている、今の取り組みがよい方向に継続していけるのか、という視点を得たこと。同世代意識の結束感とあわせて世代間の繋がりが希薄であるのが課題。次の世代に任せることも、先の世代から任せてもらうことも、この世代間の繋がりを強くするひとつの解決策だと学んだ。子どもを縁としてであった仲間も、子どもの成長と共に子離れが進む。私の継続の方向は、この活動で得た仲間と共に、子どもを縁とした住民自治活動へと新たなステージに移る。



こども夢灯り



[No. 56] 一人ひとりがパワースポット！ 佐賀 facebook 交流会

濱田 裕子（佐賀県 出納局会計課）

facebook をソーシャルメディアツールの 1 つとして活用し、相互に交流することにより、ICT を通じて地域の資源を活かした地域の活性化を図ることを目的として、平成 23 年 6 月に設立。

県内各地で「facebook ビギナーズ大集合！」「リアル交流会」「facebook 講師派遣」などを開催し、老若男女 10 代から 70 代まで延べ参加人数は、1000 人を超えている。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

平成 22 年に Twitter や facebook を始め、オフ会などでいろんな方との交流が始まった。そんな時に、佐賀の facebook 利用者が全国トップ 10 に入ったという情報があり、ならばトップ 5 を目指そうということで、全国 Top5 入りさせるための具体策を検討し、①facebook 入門の勉強会と②リアルに出会う交流会を企画することとなり、実施する団体として「佐賀 facebook 交流会」を平成 23 年 6 月に設立した。

- facebook ビギナーズ大集合！ 開催回数：12 回 延べ参加者数：343 名（中学生から 70 代まで）
- リアル交流会 開催回数：12 回 延べ参加者数：558 名（高校生から 70 代まで）
- シニア facebook 交流会 開催回数：6 回 延べ参加者数：145 名
- facebook 講師派遣 派遣回数：5 回 延べ参加者数：88 名
- 祝 3 周年記念事業『第 1 回佐賀に輝く女性フォーラム』 参加者：61 名（高校生から 70 代まで）



第 1 回佐賀に輝く女性フォーラム



facebook 交流会 高知県からのゲストを迎えて

アピールポイント

(1)成果・効果

【スタッフ】「無理せず、楽しんで！」をモットーに、一人ひとりが自分の得意分野を担当し、自分の能力を十分に発揮できている。また、仕事も居住地も違うメンバーが Facebook 上での打合せで、企画・事前準備ができるため、一堂に会する時間も節約できている。【参加者】10 代から 70 代まで、老若男女が参加され、世代や分野を超えた交流をきっかけに、新しい取り組みが生まれたり、新しい生きがいを見つけ、地域でイキイキと活動や仕事をされている。【佐賀県出身者】佐賀を離れ県外で暮らしている方とも、佐賀のイベントや風景、食べ物など、リアルタイムに情報を共有できることを喜ばれている。また、佐賀の情報を全国に拡散したり、佐賀まで足を運び当会の活動と一緒に参加し、地方ならではの ICT 活用について、指導・応援をいただいている。

(2)チャレンジ性

佐賀にある素晴らしい資源「人」「自然」「歴史」などに気づき、女性も男性もともにイキイキとつながりのある地域づくりを進めていくために、『第 1 回佐賀に輝く女性フォーラム』を平成 26 年 6 月 22 日に開催した。これから佐賀 Facebook 交流会メンバーを中心に、様々な分野で活躍されている方も一緒に、実行委員会を立ち上げ、新しい風（アイデア等）を取り込み、『佐賀に輝く女性アワード 2014』を来年 2 月に開催するために、新しい企画を展開予定。

(3)協働

佐賀県、県内各市町、公益財団法人佐賀県女性と生涯学習財団、女性の大活躍推進佐賀県会議、一般社団法人日本中小企業情報化推進協議会、Facebook 上で知り合った個人や団体、会社、佐賀県出身者などの協力・支援（人手・資金・物品の貸出、提供など）をいただいている。

(4)持続性

これまでの活動を継続しながら、「無理せず、楽しんで！」をモットーに一緒に活動できる仲間を増やし、女性も男性もイキイキとつながりのある地域づくりを進めていくために、活動を継続していく。

応募者のウェブサイト等

【Web サイト】<http://www.facebook.com/saga.facenet>

【Facebook】<https://www.facebook.com/selfnavi>

【Twitter】<https://twitter.com/selfnavi>



facebook ビギナーズ大集合！ in よってこ十間堀



[No. 58] 地備栄牛! 高粱紅茶! ポテト! 食で攻める進撃の統合作戦本部

徳田 匡彦 (岡山県 高梁市 税務課)

高梁市は、県内一の限界集落数を抱える典型的な中山間地域。統合作戦本部は、一次産業を軸に 6 次化まで含めた事業を展開。赤い短角和牛を遊休耕作地へ放牧し、最小限の労力で耕作地の荒廃を防止、飼育される和牛は赤身でヘルシー、評価も高い! 地元のお茶を紅茶に加工、新たな 6 次化特産品が誕生! マスコミでも取り上げられ話題に。特産の葉タバコが衰退、荒廃を防ぐためジャガイモへ転換。どうせやるなら、多品種栽培で特色を!

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

【地備栄牛】耕作放棄地だらけでどうにもならない高梁市。復旧しても活用をめどがない。そう、牛はどうだ? この際だから一番手の掛からない牛を投入しよう。短角和牛の放牧始まる。実験的 2 年間限定で高粱短角牛生産組合を組織。取組面積は、徐々に拡大。育った牛の肉は県内外の飲食店にも出荷。

【高粱紅茶】アイルランドで語学を学んでいたときにハマる。帰国後色々飲むが自分の紅茶へのアクセス方法がしっくりしない。そう、作っちゃえ。量産する農家があらわれ大規模に。マスコミにも取り上げられ一気にメジャーに、高粱の新しい特産品として地位を確立。一昨年は全国紅茶サミットも誘致。紅茶列車も走らせた。

【ポテト研究会】これも遊休農地対策。高粱は煙草の産地だったが、急激に縮小。畑が遊休農地として残った。作付せずとも管理は必要なので、なかなかやる気が出ない。近隣の兼業農家を組織し、途中管理の少ないジャガイモを作り始める。これなら、植え付けも収穫も土日一気に可能。品種毎に異なるカラフルな色合い、多様な味と触感。販路拡大に調理提案も行う。



地備栄牛、耕作放棄地除草中!



紅茶列車、紅茶サミットに到着!

アピールポイント

(1)成果・効果

地備栄牛とポテト研究会は、省力化や低コスト化により、耕作放棄地の回復、維持に貢献。ちなみに地備栄牛については、当初 3ha から始まったが、2 年で 6ha まで対象地域が広がった。現在は 3 団体に広がり、取り組みについて、畜産の専門家からも高い評価を得ている。ポテト研究会は高付加価値・低環境負荷も進み県内外の飲食店からの引き合いも増えてきている他、新たに開発した商品を市内のイベント等で提供する取組も行う。高粱紅茶は、毎年販売量が増加しており、これに伴う生産設備の増強、効率化を推進しており、品質も向上、安定してきた。また、耕作放棄された茶畑の復活による生産原料の増産も始まり、新たな雇用創出の道筋も見えてきた。

(2)チャレンジ性

先行事例が、少ない、もしくはほとんど無い取組ばかりであるが、小さなひらめきを手掛かりに、地域の地勢、気候風土、土地柄などを元に、効率的、効果的な導入に向け研究を進めてきた。地備栄牛では、和牛というブランド力を保ちながら比較的飼育しやすい短角和牛を東北地方より導入、資金調達については組合方式を採用し、スピーディーな事業導入を果たした。ポテト研究会では、30 品種以上の試験栽培より導入品種を選抜するなど、戦略的に取り組みを進めている。

(3)協働

各取り組みとも、地域の農業生産者や農業委員会とガッツリ組んで推進。農林部局だけでなく、観光担当など市役所内の他部署との連携も進め、市内外の様々なイベント等で開発した商品を使って高梁市を P R。最近、大学生や地域おこし協力隊など生産者以外の協力体制もできつつある。

(4)持続性

【地備栄牛】耕作放棄解消後も引き続き牛の生産に土地が利用できる。赤身も評価が高まっているし、牛の種類はともかく、どこでも低投入な放牧が一般的になるように広めたい。【高粱紅茶】大学とも連携し、放置茶畑を復活、生産面積拡大中。今後は全国的に国産紅茶をもっと普及させたい。【ポテト研究会】今後は本業を抱える会員から退職者も出て作業時間が増やせそう。ジャガイモをやや縮小し、芍薬の割合を高めていき、多様な方法で農地を守る予定。

応募者のウェブサイト等

【Web サイト】<http://0145930929.blog3.fc2.com/>



新感覚カラフルポテトサラダ

[No. 61] よさこい踊りを通して「奈良の盛り上げ」及び「奈良のPR」活動

奈良市役所チーム八重櫻 (奈良県 奈良市 都市計画課)

奈良市役所チーム八重櫻は、奈良市内で夏に開催される「バサラ祭り」を中心に、地域のお祭りや介護福祉施設のイベントなどにも積極的に参加しています。また、他府県で行われるイベントにも多数出演することで、奈良市で開催される行事の紹介や広報物の配布によるPR活動を行っています。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

奈良市役所チーム八重櫻は、奈良市内で夏に開催される「バサラ祭り」に奈良市役所からも参加しようという思いから結成され、今年で14年目を迎えます。年々、活動の幅を広げ、現在では毎年15回ほどのオファーをいただきながら活動しています。主に市内の観光イベントや地域のお祭りに出演させていただくことが多いなか、昨年は奈良市成人式や、介護施設の秋祭りにも呼んでいただきました。2010年の平城遷都1300年祭のときから現在まで、毎年約50名の奈良市職員でメンバーが構成されています。若手職員が中心のチームですが、管理職のメンバーがいるのもひとつの魅力です。



image

アピールポイント



image

(1)成果・効果

地域に根ざした活動をしているため、地域のお祭りや、観光イベントに年間15回ほど、オファーをいただいで活動しています。バサラ祭りには、14年間欠かさず出演し、イベント参加の際は、「次はどこで出演するの?」「何時から?」等、嬉しい声かけを地域の方からいただいています。

(2)チャレンジ性

県外のイベントにも多数出演し、奈良市の観光パンフレットや、広報物の配布等、奈良のPR活動を積極的に行っています。また、今年の奈良市成人式では、自分たちで毎年作るテーマ曲以外に、初の試みとして、AKB48の「恋するフォーチュンクッキー」のダンスにチャレンジしました。その結果、成人を迎える方も参加しやすく、成人式の会場が一体となり、翌日の新聞では複数取りあげていただきました。

また、昨年からは、曲の作成からダンスの振り付けまで、全て自分たちの手作りで活動しています。

(3)協働

地域のお祭りをともに盛り上げたり、バサラ祭り実行委員会とともに県外で奈良のPR活動を実施したり、市役所外の地域の方との繋がりを大切にしています。

(4)持続性

チーム結成のきっかけとなった「バサラ祭り」に14年連続の出演や、毎年地域のお祭りに呼んでくださる自治会との繋がりもあります。



image

[No. 65] あたらしいコミュニティをつくる「NPO 法人遠足計画」の活動

藤田 純子（鳥取県 八頭事務所農林業振興課）

遠足計画が考える「あたらしい」コミュニティは自発的なつながりのこと。人と人が自然に交流し、たすけあい、創造的な行動を起こせるようなつながりが増えると、地域に暮らす人がもっと自然に助け合えるようになると考えています。

主な活動は、子どもたちの遊び場づくりを行う「とっとり冒険きち」、「本と思い出をつなぐ古本屋・遠足文庫」の運営、NPOやボランティア団体のチラシをデザインする「広報支援」を行っています。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ



遠足計画のはじまりは、あるキャンプで出会った子どもたちの言葉でした。「いつもは遊ぶ場所がない。毎日やってほしい」と言われ、普段はなかなか外で遊ぶ機会がない、また遊び方がわからない子どもたちがいることに気が付きました。普段の生活の中に「遊び」を取り入れてほしいと考え、「とっとり冒険きち」がスタートしました。

その後、NPOやボランティア団体の活動を紹介する情報誌の発行を行う事業を通して、いい活動を行っている方やその情報をちゃんと多くの人に届けたいと考えるようになり「広報支援」の事業も始めました。

また、子どもたちと接するうちに地域コミュニティについて考えるようになり、人とのつながりをつくる場所として「遠足文庫」の運営を行うようになりました。

私が活動に参加したのは大学生の時で、「とっとり冒険きち」の活動に誘われ参加したのがきっかけです。

大学卒業後は就職で県外に出ており、その間は具体的な活動はできていませんでしたが、鳥取に戻ってきたことを機に活動を再開し、今は副代表として様々なプロジェクトに関わっています。

アピールポイント

(1)成果・効果

公民館や児童館等からのご依頼により、私たちが手作りの遊び道具を持って指定の場所で遊び場を開催する「冒険きち・出前隊！」を行っています。今年の春に商店街からご依頼があり開催したところ、300人以上の子どもたちが集まってくれ、商店街に活気が溢れる一日になりました。また、2012年3月には全国紙「ソトコト」の特集で活動を紹介いただき、県外の方にも広く活動をPRできたと考えています。

(2)チャレンジ性

遠足文庫の出張営業や食に関するイベント、映画の上映会や地域の方が持つスキルを活かした講座の開催なども行っています。企画するおもしろさと参加者の方の楽しそうな表情が活動の励みになります。

(3)協働

「冒険きち・出前隊！」は、年間3～5回ほど公民館や児童館等から依頼があり、鳥取市内を中心に開催しています。参加人数は100人を超える時もあります。少子化や空き地の減少や防犯の面でも、子どもたちが外で自由に遊ぶ機会が少なくなっている今、その機会を増やすことは大切なことだと感じています。また、地域の女性グループが地元産のもち米を使った特産品を作っており、味やパッケージデザインなどの商品改良を一緒に行っています。

(4)持続性

遠足計画は任意団体の頃から数えると10年以上活動を継続しています。当時一緒に遊んでいた小学生の子が、今は社会人になり運営メンバーとして一緒に活動に参加しています。長く活動していますが、ひとつの事業を同じ内容で継続していくのではなく、その時地域に必要とされるものやメンバーの個性を考えながら、ゆっくりとですが事業内容も成長しています。



使われなくなった保育園を
活用した「遠足文庫」



みそ作り教室を開催しました

応募者のウェブサイト等

【Web サイト】 <http://ensoku-keikaku.org/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/ensoku.keikaku>

【Twitter アカウント】 http://www.twitter.com/ensoku_keikaku



[No. 67] 先生も飛び出そう！発達障がいのある若者と先生をつなぐ居場所づくり

所づくり

太田 真美（長野県 長野市 公立小学校教諭）

公立小学校に4年間勤め、現在は東京のNPO法人の教育機関に派遣され1年間の研修にきています。主に発達障がいのある子どもの学びの場を提供し、専門家と連携し発達支援・就労支援を行っています。長野に戻ってからは発達障がいの若者たちと教師をつなぐ、居場所作りに貢献したいと思っています。より多くの情報を持ち帰るためにも、月2回の地域の方とのヒアリングの会「子ども若者のための情報交換会」を開催しています。

活動に参加したきっかけと現在までのあゆみ

私は、いま発達障がいを持った子どもや若者たちの支援をしています。生きづらさがかかえた子どもや若者との関わりは、いつも大きな気づきや学びを与えてくれます。その中で、彼らが生涯を通じて自己肯定感を高められるような居場所の重要性を感じてきました。しかし、ある日突然「本当に居場所が必要だったのは、自分だったのかもしれない」と思うことがありました。支援をしているつもりでいて、実は自分が彼らから元気をもらっていたのだと気がつきました。このことから、お互いにとってプラスとなるような「居場所」が必要なのだと思うようになり、居場所づくりのプロジェクトを立ち上げました。彼らとの関わりの中で、より多くの仲間と教師としてのやりがい・生きがいを感じられるようにすると共に、教師がサポーターになって彼らを支援していくような新たな居場所づくりのシステムが創造できないかと考えています。現在は、異業種の方々とのヒアリングを行ったり、事例を集めに各地へ視察に行ったりし、その可能性を探っている段階です。仲間を元気にしたい、そして発達障がいの子どもや若者たちを支えたい、その両方が叶えられるような居場所づくりをめざして活動中です。



情報交換会・余暇支援活動の様子

アピールポイント

(1)成果・効果

まちづくり教育やキャリア教育の勉強会で、異業種の方から様々なノウハウを教えていただいています。大学卒業後すぐに教員になったので、教員以外の方にお話を伺うのがとても新鮮です。新たな発見や、「こんなことやってみよう！」と夢を持つことができました。教師としてのモチベーションも高まりました。教師が学校の外に出て学ぶことの意義を感じています。

(2)チャレンジ性

月2回の「子ども若者のための情報交換会」は、縁もゆかりもない地域で今年の4月から開催しています。参加者の年齢層が17歳～72歳と幅広く、色んな視点でお話を伺っています。ご縁があり、杉並区役所の障がいの者の就労支援に携わっている方や、若者の再出発を支えるNPO団体の方にも参加していただき、就労支援の課題についても情報共有しています。今後の展開としては、メンバーでイベントの企画・運営をしたいと考えています。

(3)協働

「発達障がいの若者たちが就労する」とはどういうことなのか、実際に体感し課題点を探っています。先日（は販売実習として、彼らとフリーマーケットに出店しました。彼らが作った織物のバッグやアクセサリを販売しました。就労する上で、彼らがどんな点で困ってしまうのか、また、どのようにしたら特性を活かせるのかを探ることができました。ワークセンターの職員にアドバイスをもらいながら、彼らに必要な対人関係スキルの身につけさせ方を学んでいます。

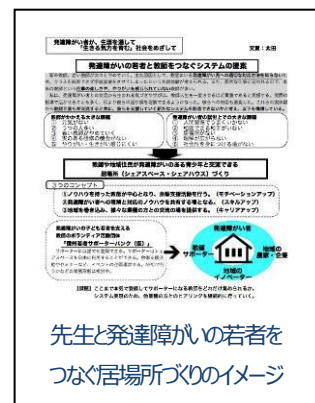
(4)持続性

Facebookでの発信から、教師の社会貢献活動に興味を持ってくれる教員の仲間が増えました。

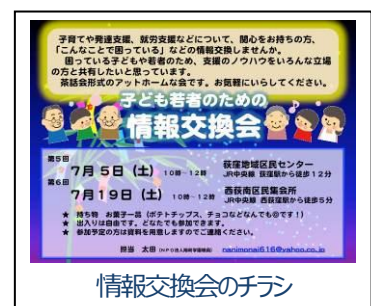
「どんなことやっているの?」「がんばってるね!」とメッセージをくれる仲間もいます。Facebook等を活用していくことで、発達障がいへの認知を広めると共に、発達障がいの若者を支えるサポーターとなって、一緒に活動する教師を増やしていければと考えています。教師の社会貢献活動の促進のため、今後も継続的に活動の発信をしていきます。

応募者のウェブサイト等

[Facebook] <https://www.facebook.com/senseitokodomowakamono>



先生と発達障がいの若者をつなぐ居場所づくりのイメージ



情報交換会のチラシ

地域に飛び出す公務員アワード 2014 スタッフ一覧

地域に飛び出す公務員を応援する首長連合事務局

事務局長 岩永幸三（佐賀県）

アワード班

企画・進行管理担当 茂田幸嗣（広島県）

募集担当 寺島直樹（岡山市）

ウェブサイト・デザイン担当 梶谷彰男（鳥取県）

審査担当 茂田幸嗣（広島県）

応募募集担当 寺島直樹（岡山市）

授賞式班

津崎龍也（天草市）, 茂田幸嗣（広島県）, 寺島直樹（岡山市）, 梶谷彰男（鳥取県）,
西崎隼人（奈良市）, 胎中謙吾（奈良市）, 梅原恵子（長崎県）, 後藤 好邦（山形市）



公務員よ！飛び出せ！やり出せ！頭出せ！